ミュンヘンだより

NO.2
2013.3.5

ミュンヘンでの生活もあっという間に１年が過ぎようとしています。３月１５日の修了式に向けて、今年度のまとめと来年度の計画・準備で大忙しです。

この１年間の経験を通して、日本人学校における教育のあり方や特色が見えてきました。各教科・領域における学習には日本と変わらないものもありますが、特に行事や総合的な学習などでは、学校が置かれた地域の環境を生かした取り組みを行っています。その中でも、現地校との交流学習などドイツ語学習を基盤とした国際理解教育には力を入れています。今回は、実際の交流学習の様子やドイツ語学習を生かした文化祭の取り組みなどを紹介します。

ミュンヘン日本人国際学校
山　本　　泰

現地校との交流学習

本校では毎年１回、全クラスで現地校との交流学習を行っています。あらかじめ現地の交流相手校と連絡を取り、担任同士が交流当日の打ち合わせをした上でお互いに学校を訪問しあいます。本校に招待したときには、まず教室で顔合わせをした後、体育館でゲームや運動をして緊張をほぐします。子どもたちは、少しぐらい言葉が通じなくてもすぐに打ち解け笑顔で交流が始まります。パウゼ（小休憩）の時間には、準備してあったおやつを食べたり一緒におにぎりを作って食べたりします。その後、教室に入り、工作や折り紙をしたりドイツ語を漢字で表現した名前を筆で書いたりして、日本の文化を通して交流します。中には臼や杵を使ってもちつきをしたクラスや全員で将来の夢について語り合ったクラスもあり、言葉や文化の違いを体感し、共有しながら楽しみました。

現地採用教員によるドイツ語授業

人と人とがコミュニケーションを取るために大切なものはいろいろありますが、その一つは言葉です。本校でも現地理解を深めるのに役立つ一つの手段とするために、小学部低学年で週４～５時間、高学年や中学部では週３時間程度ドイツ語の授業を行っています。授業を受け持つのは現地採用のドイツ人教師で、基本的にすべてドイツ語で行われます。

本校の児童生徒は、小さい頃からドイツで暮らしている子から昨日ドイツにやって来た子まで実態は様々ですが、レベル別の３コースに分けて行う学習に楽しく取り組んでいます。まずは聞いて話すことから始め、次に書いたり読んだりすることを学びます。中にはドイツ語検定に挑戦する子もいます。

ドイツ語の学習を生かした文化祭

「校内文化祭では、全クラスがドイツ語による表現活動を行う」と年度当初の職員会で決まり、１学期のうちから各クラス担任がドイツ語担当の先生と相談しながら中身を決めていきました。ドイツ語の教科書にある話を元にしながら独自に歌や踊りを入れたもの、ドイツにもある「学校演劇集」から題材を選び、日本でお馴染みのアニメ主人公を登場させるようにアレンジしたものなど、いずれも自分たちの日頃の学習や学年の特色を生かしたものでした。中でも、これまでの社会科や総合的な学習の時間で学んだことを元に、歌やスライドを交えて行った小学部６年生の戦争や平和についてのドイツ語による意見発表には、会場の保護者はもちろんドイツ人のお客様からも大きな拍手をいただきました。たくさんの方の前で母国語でない言葉で表現活動を行えたことは、子どもたちにとって大きな自信となりました。

職員による現地校訪問

子どもたちの下校後の時間を利用して、ギムナジウム「ディアクセン校」へ全職員で現地校訪問に出かけました。この学校とは本校の５，６年生が交流学習を行っていることもあり、好意的に私たちを迎えてくれました。「ギムナジウム」は、小５から高３までの子どもたちが通う、主に大学への進学を目的とした学校ですが、日本のいわゆる進学校とは異なり、学校により様々な特色を持っています。「ディアクセン校」の特色は次の５点です。音楽や美術の芸術科目に力を入れていること。政治や平和についての学習を年間を通じて行っていること。必修教科として「ドイツ語」「数学」「外国語」「物理」が週３～５時間あること。学年に応じて宿題が毎日１時間半から３時間程度分出されること。１週間ほどの宿泊学習を行い、国内外のいろいろな学校と交流していること。外に通じるドアを開けるとそのままステージになるという玄関ホールは、この学校の特徴を表しているようでとても印象的でした。

こうした様々な取り組みを通じて、子どもたちの国際感覚を育成していくことが教育目標の一つです。来年度はイベント的な国際理解教育から一歩進め、継続的日常的な理解につながる取り組みを、教科・領域と関連づけながら図っていきたいと考えています。